

【小施策評価(平成29年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	4	人が集い活力を生むまちづくり	小施策 主管課等	交通政策課	
施策	27	交通環境の構築	評価 責任者	富樫 正幸	内線 2760
小施策	27-2	公共交通機関の利便性向上と利用促進	評価 シート 作成者	藤原 司	内線 2761

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
公共交通の利用者数は、ピークの時に比べ少ない状況にあることから、公共交通を維持・確保していくためにも、引き続き、利用促進に向けた取組を推進する必要がある。		快適で利用しやすい公共交通環境を構築し、マイカーからの転換を促進させるために、バスの走行環境・バス待ち環境の改善や利便性の向上を図るほか、鉄道の利用環境の整備を進める。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(対象をどのようにしたいのか)
各交通手段 市民		公共交通(バス・鉄道等)の利便性が向上する。 公共交通(バス・鉄道等)を利用する。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成29年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標① 1日当たりのバス・鉄道利用者数		単 位	目指す方向	成 果 点	成果の要因分析
当初値 (H25)	71,962	人	↗		
H31目標値	74,400				
H36目標値	74,600				
				問 題 点	問題の要因分析
				<p>・バス路線の維持・確保が図られた。</p> <p>・市内路線バス対象の「まちなか・おでかけバス」事業と、IGRいわて銀河鉄道対象の「玉山地域列車でおでかけきっぷ」により、公共交通の利用促進を図った。「まちなか・おでかけバス」は利用者が増加している。</p>	<p>・広域生活交通路線維持費補助金により、赤字バス路線について、バス事業者に対し、県と沿線市町とで協調補助することにより、路線の維持が図られた。</p> <p>・まちなか・おでかけバス事業補助金により、「まちなか・おでかけバス」事業と「玉山地域列車でおでかけきっぷ」事業を実施する各交通事業者に対し補助を行った。「まちなか・おでかけバス」の利用者増加は、間接的に補助を受けている70歳以上の住民のニーズを捉えているものと推察している。</p>
				<p>・ノンステップバス導入事業費補助金では、平成29年度まで補助実績がなかった。</p> <p>・広域生活交通路線維持費補助金では、平成29年度で一部路線の経路廃止による補助金交付額の減少があるものの、他路線に係る補助金については微増傾向にある。</p> <p>・まちなか・おでかけバス事業補助金では、市内路線バス対象の「まちなか・おでかけバス」が目標である年間発売枚数10,000枚を超え、事業本格実施から5年が経過しており制度の検証及び見直しが必要な時期となっている。</p>	<p>・ノンステップバス導入事業費補助金では、平成23～28年度においては、東日本大震災に伴う国の被災地特例による補助の方がバス事業者にとっては有利であったことや、制度の周知不足と推測される。</p> <p>・広域生活交通路線維持費補助金では、複数の市町村にわたるバス路線全体の赤字額を関係市町村の路線距離で按分し補助する制度となっているため、バス利用が少ない他の市町村の区間の分も一部、当市で負わざるを得ない状況となっている。</p> <p>・まちなか・おでかけバス事業補助金では、市内路線バス対象の「まちなか・おでかけバス」の事業実施当時の高齢者人口、バスの購入率及び利用状況等が変化している。</p>

今後の方向性(平成30年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…30年度着手済または着手予定 ☆…31年度以降の着手を検討
<p>★ 引き続きバス利用促進についてPRを実施していく。</p> <p>★ まちなか・おでかけバス事業補助金では、市内路線バス対象の「まちなか・おでかけバス」について、今後の事業の方向性について、アンケート結果や高齢者人口の動向を踏まえてバス事業者と協議する。</p> <p>★ ノンステップバス導入事業費補助金では、バス事業者に対して制度について説明会を開催し、補助金制度の活用促進を図る。</p> <p>★ 広域生活交通路線維持費補助金については、「バス路線の今後のあり方検討会」において、需要に見合った路線の見直し等バス事業者及び岩手県と協議する。</p>	